


元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初的一步「オープン・ザ・ドア！」

 国立妙高青少年自然の家  
コミュニケーションマガジン

# Open *the* Door!

Vol.5



こ  
こ  
こ  
に  
日

あ  
る  
常  
が

特集 国立妙高青少年自然の家  
～もうすぐ二十歳～

特集 妙高ジュニアアドベンチャー 2010  
～この夏 出会える 新しい自分～

特色ある実践校

MYOKO 活動プログラム体験会

MYOKO のひみつ～職員紹介

# 国立妙高青少年自然の家 もうすぐ

# 20歳

今まで本当にありがとございました。これからもよろしくお願い致します。

国立妙高青少年自然の家は、平成三年に開所して以来、平成二十三年で、お陰様で創立二十周年を無事に迎えることになりました。

今日の国立妙高青少年自然の家があるのも、皆様の変わらぬご愛顧の賜物であると感謝しております。ありがとございました。

今号では、国立妙高青少年自然の家が開所してから二十周年を迎えることを記念して、

今までの国立妙高青少年自然の家の歩みをみなさんと振り返ってみてみたいと思います。

簡単に「二十周年」といいますが、「二十周年」を迎えるまでには様々な歴史がありました。

## 開所前

さて突然ですが、当時の妙高村（現：妙高市）が「少年自然の家」設置の誘致に動き始めたのはいつ頃だと思えますか？

正解は、昭和五十二年一月です。当時の上越支庁長と妙高村長で誘致することを確認したそうです。

この時を起点として、文部省（当時）の学制百年記念事業の一環として、国立第十四少年自然の家を新潟県中頸城郡妙高村（現：妙高市）に設置することに決定したのは、昭和五十四年十一月のことでした。

「昭和六十年一月」に建設の調査が入り、本館の基礎工事が開始したのは、「昭和六十三年十月」でした。キャンプ場、スバルホールを除くすべての建物が完成したのは工事開始から何と四年の歳月をかけた「平成三年十月」のことでした。

## 平成3年度

この年の四月十二日に「国立妙高青少年自然の家（当時）機関設置」がされ、初代所長五十川隆夫氏をはじめ、十二名の職員でスタートを切りました。

国立妙高青少年自然の家にとって記念すべき最初の主催事業は、「平成三年度雪国生活体験倶楽部」でした。平成三年十二月二十五日（水）から十二月二十八日（土）の三泊四日で六十三名の方が参加をしてくださいました。

## 平成4年度

この年に「サマーコンサートイン妙高」などの事業が行われ、十月十二日には「開所式」が挙行され、名実ともに妙高青少年自然の家はスタートしたのです。この年には他に主催事業は七つ開催し、いろいろなものの普及・発信を開始しました。この年にはキャンプ場の整備工事が始まりました。



「ありのままの自分」と「ありのままの友達」を見つけた妙高での日々

子どもたちはもちろん、本校にとっても初の試みとなる『妙高長期宿泊体験学旅行（4泊5日）』を6月25日から6月29日にかけて実施しました。実施後の率直な感想としては、予想していた以上に子どもたちが充実した生活を送ることができ、4泊5日の長期宿泊体験学旅行に教育的意義を見出すことができたという事です。

4泊5日の生活を通して子どもたちに最も高めてほしいと考えていたもの、それは「自己有る感」です。ともすると、自分と他人とを比べ、自信をもって自己を表現することを躊躇してしまう子どもも少なくない思春期の入口にいる6年生の子どもたち。この時期の子どもたちにとって、「自己有る感」は、人と人との関係の中で自己を表現し、よりよい人間関係を築いていく土台となるものと考えます。そして、この時期の子どもたちだからこそ、自己及び友達との関係をしっかりと見つめることができる、見つめる意味があると考え、本校では6年生での実施に踏み切りました。

4泊5日、親元を遠く離れ、友達と共に生活するという「不安・緊張」。2泊3日までの経験しかない子どもたちにとって、2泊目以降は未知の領域。「ありのままの自分」と「ありのままの友達」との間で、折り合いをつけながら生活する経験は、多くの葛藤を生み出しました。そして、毎日の振り返りの時間には、その葛藤を言葉にして友達と共有しました。この振り返りこそが4泊5日で最も大切にしていた時間であり、子どもたち一人一人にとって、学級全体にとってこの上ない充実した時間でした。日を追うごとに友達への感謝の言葉が増え、学級の雰囲気がかほりかとしていくのを感じました。

このような充実した振り返りの背景となったものは、やはり充実した活動です。都市部で生活している子どもたちにとって、「源流探検」「野外炊飯」「キャンプファイヤー」等々、自然豊かな環境で活動すること自体が驚きと発見の連続であり、楽しくて仕方のない毎日でした。加えて、国立妙高青少年自然の家の全ての活



神奈川県横浜市立旭小学校  
教諭（6年生担任）  
清野 正康





### 平成5～8年度

平成五年には、「サマーコンサートイン妙高」が、MYOKO音楽祭となり平成九年まで行われました。また、スバルホール、第二駐車場の工事が開始となり平成六年に完成しました。平成七年には第二野外炊事場が完成し、坪岳ハイキングコースが開設されました。平成八年には、ふれあい棟の工事が始まり、参議院文教委員会の視察がありました。

### 平成9年度

この年には、ふれあい棟完成、仲間づくりの森（プロジェクトアドベンチャー、フィールドアスレチック）が完成しました。そして、「妙高・キッズアドベンチャー」が始まり多くの小学生たちが一週間以上の長期宿泊体験活動を行いました。

### 平成10年度

七月には、「国際青年の村98」が自然の家を会場として開催されたため、紀宮様が活動の御視察にお成りになりました。

主催事業としては、「妙高ふれあいスクール」、「MYOKO音楽祭」が、「MYOKO光と風のフェスティバル」になり、自然体験活動担当教員研修会が行われました。

### 平成11年度

平成十一年には、「妙高ふれあいスクール」が「はつらつ体験塾」と名称が変わり、今現在まで行われています。

「妙高自然の家ボランティア養成講習会」、「プロジェクトアドベンチャー指導者講習会」などの事業が始まりました。

### 平成12年度

平成十二年には、「自然体験活動担当者プログラム作成研修会」、「野外教育企画担当者セミナー」などが開催され、自然体験活動の素晴らしさ、技術などを全国に発信しました。

三月には、プレイホールに「室内プロジェクトアドベンチャー」が完成し、炭焼き広場を開設し、様々なプログラムが可能になり幅がますます広がりました。

### 平成13年度

平成十三年四月一日をもって、文部科学省から、国立青少年教育三施設が独立行政法人に移行し、この名称も「独立行政法人国立青少年自然の家 国立妙高少年自然の家」に変更となりました。そして、七月十三日に利用者数延べ百万人を達成いたしました。

また、この年で開所十周年を迎え、記念式典を行いました。多くの方々に祝福をしていただきました。



動の根底には、「思いやりのリレー」の精神が流れています。「一緒に活動する仲間への思いやり」、「次にその活動をする人への思いやり」等々、常に「思いやりのリレー」を合言葉に過ごした4泊5日は、子どもたちの優しさを十分に引き出し、実践へと促してくれました。学校に帰ってきたときの子どもたちは、疲れてはいないものの、何かをやり遂げた清々しい表情でいっぱいでした。

本校にとって、国立妙高青少年自然の家での生活は、ねらい通りに子どもたちの心を十分に耕し、「自己有用感」につながる経験を積むことにつながりました。計画から実施まで親身になって関わってくださった職員の皆様にも心より感謝いたします。

### 国立妙高青少年自然の家への思い 「妙高というフィールド、 そして施設への愛着」



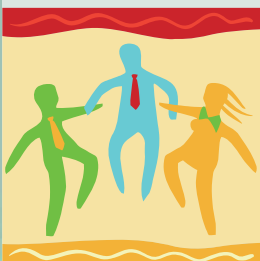
至学館大学健康科学部 時安 和行

大学で野外運動を専攻し、同時に未熟ながらも競技スキー部で活動した。その時から妙高というフィールドとの関わりが始まった。スキー部の合宿が夏冬とも妙高で多く実施され、特に夏の池ノ平から野尻湖を一周し池ノ平に戻ってくる30km以上のランニングは今でも忘れられない。フラフラな私に監督が給水を渡すときの励ましと笑顔、そして背景の妙高の自然は鮮明に覚えている。

1980年代後半の秋、野外運動研究室で先生方や大学院生が国立の少年自然の家に併設されるキャンプ場のレイアウトについての検討が始まった。それが「妙高」だと知り、「夏も冬もダイナミックな自然体験活動ができる妙高なんて最高だな・・・」といつしか妙高で活動し働いてみたいという期待と夢を持ったことを思い出す。その約10年後に、妙高ではないが国立青少年教育施設職員として働き始め、何回か国立妙高少年自然の家に足を運び、アクティビティ指導を勉強し楽しんだ。いつ来ても職員の自然を愛する気持ちと指導への熱意を感じて施設を後にした。

現在は勤務する至学館大学で夏冬の実習でキャンプ場を利用させていただき10年近く経つ。キャンプセンターや野外炊飯棟からテントまでの道のりを「疲れた」「暗くて怖い」という言葉が多く、テントが遠い、めんどくさい」と言っていた学生が、火打山登山や笹ヶ峰トレッキングの後にキャンプ場に戻ってくると、「帰ってきたよー！」「たたいまー！」と大きな声で学生が叫ぶ。テントに、キャンプ場に、国立妙高青少年自然の家に愛着を持った瞬間である。学生の中には実習後にボランティアに参加する学生もいる。学生は「帰ってきたよー！」「たたいまー！」と言っているだろう。

主催事業や研究テーマの改善は大いに結構であるが、いつ来ても変わって欲しいくないこともある。それは、国立妙高青少年自然の家にある自然の優しさである。そして満面の笑顔で受け入れてくれる職員の暖かさである。再度訪れた人が「また来たよー！ たたいまー！」という言葉に大きな声で、「お帰りなさいい！」と応えてくれる施設であって欲しい。次回利用させていただくときは学生に習って、ちょっと恥ずかしい気もするが、職員の方々に大きな声で、「たたいまー！」と声をかけてみようかと思う。





### 平成14年度

この年、悩みをかかえた青少年を対象とした体験活動推進事業の一環として中学生を対象として「オープン・ザ・ドア」がスタートしました。

これは、悩みを抱える中学生を二十泊以上の長期に渡る生活体験・冒険活動に取り組ませると共に、マウンテンバイク等で日本縦断していくという圧倒的な達成感を与えることによって自己の生活を振り返らせ、社会性や自信の回復、自立心等を育てることをねらいとして行われました。

### 平成15年度

この年の主な主催事業として「MYOKOプログラム体験会」が始まりました。

これは、地域の指導者、幼稚園・学校の教職員利用団体の指導者を対象に、自然の家が持つ魅力あるプログラムを体験し、指導力の向上を図るために行われました。

### 平成16年度

主な事業として、問題行動、不登校等の現代的課題を抱える青少年に絶えず接している保護者等を対象に「心のセミナー」～悩める親たちのためのサポートキャンプ」を四回開催し、青少年との関わり方や家庭・学校・地域社会との連携の在り方を探求し改善を図る趣旨で開催されました。

### 平成17年度

この年から「MYOKO活動プログラム体験会」が年に四回になりました。野外炊事で昼食を作ったり、妙高アドベンチャープログラムや環境学習を体験したり、ハイキングコースなどの実地踏査をしました。

最終年度となった「オープン・ザ・ドア」も太平洋から日本海へ」が実施され、全国に成果が報告されました。

### 平成18年度

この年は、国立青少年教育3施設（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター・独立行政法人国立青年の家・独立行政法人国立青少年自然の家）の発展的統合ということで独立行政法人国立青少年教育振興機構が発足し、「国立妙高青少年自然の家」が誕生しました。

全国の小学校四年生、六年生二十四名を対象に十四泊十五日の長期キャンプ・キャンプとお手伝いの旅「やらせから自立へ」がスタートし平成二十年まで行いました。

### 平成19年度

この年は、「長期宿泊体験活動における『生きる力』再生プロジェクト」として、「妙高フレンドスクール」通学キャンプ」に替わり、妙高市内の小学校五校の六年生約百名が六泊七日の日程で宿泊する「妙高フレンド



### 自ら見つける力 自ら考える力 自ら行動する力

私たちは千葉県でサッカークラブチームとして小学生・中学生を指導している団体です。そのスポーツの大好きな子供たちに基礎学習能力の定着も狙い、簡易学習塾も開いています。そして子供たちの心身ともにグローバルな成長を狙っています。国立妙高青少年自然の家は4年前からの利用です。夏休みには中学生7泊8日と出来る限り長期日程合宿で利用させていただいています。通常スポーツクラブの合宿という単一スポーツを強い負荷をかけたトレーニングするものが多い中、この国立妙高青少年自然の家では、サッカーだけにとらわれず、心の成長を狙った合宿となるよう計画しています。合宿中はもちろん携帯電話は一括管理、ゲーム機も利用禁止。しかし、集団で遊ぶ遊具は大歓迎。集団スポーツでは仲間とのコミュニケーション能力が絶対必要であると考えています。妙高アドベンチャーによる仲間との協力による達成感の習得。自炊も4回以上経験。役割分担された各自の責任と協力。最終日には妙高山登山。麓では気楽な会話だった声も徐々に、「ここは滑るぞあ」、「鎖場は手を離さなければ安全だぞあ」、わかりきった事でも復唱。とても大きな成長と感じています。



千葉県  
順蹴フットボール  
アカデミー 代表  
三戸 康裕

ある時、トイレのスリッパが次の人がすぐ履ける向きに置かれるようになりました。コーチの指導は「トイレを使った後便器が汚れていたら次の人の事を考えてきれいにふき取ってから出なさい。」だったのですが、スリッパまで次の人の事を考えて脱ぐようになるとは、合宿の狙いと言えは狙いですが、非常にうれしく感じ子供たちの心の成長を確信した時でした。

思春期という中学生年代、体の変化も考え方の変化も一生のうちでここまで変化する年代は二度とありません。その最も大事な時期にこそ、怒られ怒鳴られ行動するのではなく、自ら考え見つけ出し進んでしかも楽しく行動する力を身につけてほしいと思っています。サッカーの試合もベンチで怒鳴ることはありません。ピッチに立ったら自分の責任で戦わなくてはなりません。その責任をしっかりと果たすためにトレーニングがあります。この妙高自然の家での体験は、サッカーはもちろん今後の生活でも必ず大きく役に立つことでしょう。

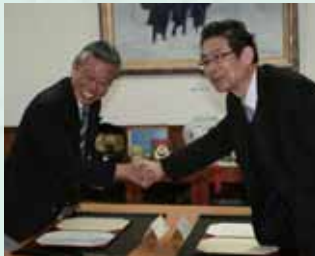
### 「出逢いは人生を変える」

やっぱりこの言葉から始めようと思います。正直に言うと、この原稿を書きながらすごく悩んでいます。本当にたたくさんのオモイが溢れてきて、本当に素敵な出逢いがありすぎて、とてもじゃないけどまとめられない!! たった一つの出来事で、原稿用紙が溢れかえってしまっそうで、いったい何を書けばいいのやら? と思っている私がいいます。



国立妙高青少年自然の家  
法人ボランティア  
及川 未希生

でも同時に、この「妙高」ともに歩んできた日々が、言葉では語りつくせないほどのとても大きく大きな「オモイ」を心に刻んでくれたんだなあと思うと、なんだか嬉しい気持ちになります。もういつそこのまま何一つ具体的なことを書かなくてもいいのかなあ、なんて思ったりもします。でも一つくらいは書くことが。4年前初めて参加した主催事業は、キャンプとお手伝いの旅でした。そのキャ





キャンプ・友情・笑顔・自立の一週間」が開催されました。

また、更なる連携・協力を図るために国立大学法人上越教育大学と協定書を交わしました。

### 平成20年度

「キャンプとお手伝いの旅」やらせから自立へ」が三年目を迎え、研究成果を全国に普及・発信しました。

また、長期宿泊体験活動のより一層の推進を図るため「豊かな体験活動推進フォーラム」が始まりました。

そして、妙高市と協定書を交わり、更なる連携・協力を深めることとなりました。

### 平成21年度

この年から、次代を担うリーダーの育成を目的とした「妙高ジュニアアドベンチャー」九」が行われました。

ここでは、困難に立ち向かおうとする力 自ら考え行動する力 創造力を働かせ工夫して課題を解決しようとする力 集団を目的やねらいへ導こうとする力 集団内の人間関係をより円滑にしようとする力を青少年のリーダー性を特定する要素として絞り込み、実証していくために行いました。カヌーで佐渡海峡横断し、マウンテンバイクで佐渡島一周するなど、子どもは次々と困難な状況をクリアしていききました。

十月二十四日、十月二十五日に、豊かな体験活動推進フォーラム」が開催されました。このフォーラムの特別講演会では、千葉県知事・森田健作氏をお招きし、「早ね早おき朝ごはんで拓く子どもたちの未来」で講演していただきました。

そして、十月三十日には、延べ利用者数二百万人を達成しました。

平成22年度

「妙高ジュニアアドベンチャー」一」が、七月二十五日、八月八日十四泊十五日で、今度は「信濃川全三六七kmをMTBによるサイクリング、Eポート、手作りいかだで、河口まで下る長期キャンプを行いました。

また、十月三日に「国立妙高青少年自然の家 感謝祭」を開催しました。

いよいよ平成二十三年度に、国立妙高青少年自然の家は創立二十周年を迎えます。これからも皆様に「愛顧いただけるように職員一同これからも「さわやかあいさつ 心のえがお」を忘れずに全力で取り組んでまいります。

これからも国立妙高青少年自然の家をよろしく願っています。



ンプで一緒にキャンプカウンセラーをした親友と久しぶりに話す機会がありました。お互い夢中になるくらい思い出話に花が咲き、何時間も話が尽きない中で、親友がこんなことを言っていました。

「たっさん泣いたし、笑ったし！今、振り返ってみるとさ、あの16日間のキャンプが私たちの「原点」で、あの時「人生」変わったよね！」

私も心の底からそう思います。まぎれもなく私の出発点だったし、今も強烈なおモイとして心に響いています。いつか自分もこんなキャンプをしてみたい、子どもたちを感動させたい、あなたのオモイをカタチにしたい、夢追うための原動力です！

この妙高でたっさんの仲間と出逢い、たっさんの子どもたちと出逢い、たっさんの「オモイ」と出逢うことが出来ました。妙高の門を叩いて本当に良かった！まさに感謝感激雨降です！

私の妙高で過ごした日々がそうであったように、この場所での体験の一つ一つが、いつも誰かの出発点であり、同時に初心に帰れる場所であってほしいと思います。きっとそんな「体験」に出逢えたなら、その瞬間あなたの人生も変わります！！

### 「人」が作る「人」のための 妙高青少年自然の家



上越教育大学  
施設マネジメント課  
元国立妙高青少年自然の家職員  
秋山 洋

初めてこの妙高に来た時のことを思い出します。平成8年3月。スーツ姿で新境地として引き継ぎに来た日でした。春の陽気の中、玄関前の4mもあろうかという雪の山に圧倒されました。あれから14年、私は今も妙高の魅力に取りつかれています。なぜ妙高はこんなに魅力的なんでしょう。

私は2期6年を妙高で勤務させていただきましたが、自然の中で体を動かすこと、作業がこんなにも楽しいこと、元気を与えてくれるものだと妙高に来るまでは思いもよっていませんでした。時間があれば外作業をしていたものです。点検・整備が目的ではあるけれど、そこに息づく木々・植物・動物・昆虫・土・雪・空気あらゆるものを全身で感じるためでもあったし、自身が元気をもらいつつも、作業することで体験活動に訪れる人達の感動に繋がっていることが嬉しくてたまらなかつたのを覚えています。

そんな妙高に集まる人たちの繋がりも魅力の一つです。利用の皆様からの「また来ましたよ！」といった言葉、事業参加者・ボランティアスタッフとの交流、以前の事業参加の子どもが大学生リーダーとなって訪ねてきてくれたこともありました。ここに来ると懐かしい顔に会える、元気になる。そう思ってくださいる人がいることは妙高にとって宝だと思います。

妙高で働くスタッフも素晴らしい人ばかりです。もはや「労働」感覚はなく芸術家が開発者に近いような感覚、子ども達に感動を与える「自然の家」という作品をみんなで工夫し、悩み、討論し、様々な思いを重ねて形にしてきた作品が今の妙高なんだろうと思います。完成形としての終わりがなく、成長し続けていく生き物のような作品。

いつまでも、雄大な妙高山の麓、変わらない自然の中で、人が作り、人に生きる力と感動を与え続けられる、成長し続ける「妙高」であることを願っています。





豊かな自然の中で  
絆づくり

新潟県糸魚川市立  
糸魚川東中学校区

- 糸魚川市立浦本小学校
- 糸魚川市立下早川小学校
- 糸魚川市立上早川小学校
- 糸魚川市立大和川小学校
- 糸魚川市立糸魚川東中学校

異校種間の行動連携により

仲間とかかわる力を

はぐくむ長期宿泊体験活動



今ここから始まる  
新しい自分と仲間



Main Program

- 妙高アドベンチャープログラム
- キャンドルセレモニー
- 野外炊事
- 課題解決オリエンテーリング

糸魚川東中学校区 2泊3日のプラン

事前	糸魚川東中学校会場 アイスブレイクの会 出張妙高アドベンチャー
1日目	午前 野外炊事
	午後 各学校の紹介
	夜 スタンプ練習
2日目	午前 妙高アドベンチャー/ ミスプーン・フォークづくり
	午後
	夜 キャンドルセレモニー
3日目	午前
	午後 課題解決オリエンテーリング

はじめに

糸魚川東中学校には、複式学級を有する小学校二校、小規模の小学校一校、中規模の小学校一校の児童が入学してきます。日本海に面した二つの小学校区と山沿いに位置した二つの小学校区では、地域性も文化も多少異なっています。

そのため、生徒は、中学校に入学すると学年・学級の中で新たな人間関係を築くために様々な課題をクリアしなければなりません。実際に、新しい生活の中で望ましい自己表現を行うことに不安を感じたり、気を遣いすぎてストレスを感じたりすると訴える中学生が絶えないという状況があります。

これらの実態を踏まえ、当校区では、温

かなかかわりを醸成しつつ、お互いの立場を考えながら折り合いをつけていくための心情やスキルを身に付けていかなければならないと考えました。

そこで、四つの小学校と連携して児童・生徒の豊かな社会性をはぐくむことと仲間づくりを目的に、『中一チャンス』プランの取組を進めることとしました。その核となる取組として、小学校児童と中学校生徒と一緒に活動する宿泊体験学習を国立妙高青少年自然の家で実施しています。今年度で四年目の取組となります。

この宿泊体験学習では、中学校入学以前に小学校六年生同士が交流して顔見知りになることと、中学校一年生と小学校六年生と一緒に活動することで中学校入学に係る不安を軽減し、併せて仲間づくりに必要な



力をはぐくむことをねらっています。

## 核となる中一チャンス宿泊体験学習

### 1. 事前のアイスブレイク

宿泊体験学習に先立ち、参加児童生徒が一堂に会し、アイスブレイクの会を行いました。「過去にとらわれず、今ここから始まる新しい自分と仲間を大切にしよう」というコンセプトのもと、同じグループで活動することになる児童と生徒が打ち解けるために、出張妙高アドベンチャープログラムを実施しました。

### 3. 妙高アドベンチャープログラム

小学生と中学生の混成グループにファシリテーターが一人付き、豊かな自然の中に配置されたエレメントを利用して、協力しながら課題を解決する活動を行いました。試行 失敗 話し合い 再試行を繰り返して、互いの身体を支え合いながら知恵と力を合わせる経験を通してグループ内に絆が生まれたようです。このころから「仲間と協力し、助け合って成功したものは楽しいと感じた。」等の感想が聞かれるようになりました。

### 4. キャンドルセレモニー

グループごとのスタンツや出し物を課題とし、企画から練習、本番の運営までを話し合いながら進める場を設定しました。中学生がアイデアを提示し、必要な物品を全員の協力で製作したり、練習の掛け声を小学生が発したりする場面が見られました。本番では、発表ごとに温かな拍手が起こり、発表を行った児童・生徒が達成感を得た姿が見られました。

### 5. 課題解決フォトオリエンテーリング

自然の周辺に設定されたコースにグループで解決する課題を加えたフォトオリエンテーリングを実施しました。このころには、終始小・中学生が打ち解けた雰囲気、談笑しながらコースを回る姿が見られました。また、小学生の疲労度に合わせて休憩を取るなど、中学生が活動をリードし、仲間に配慮する行動が随所に見られるようになりました。

## おわりに

三日間の宿泊体験学習は、児童・生徒に仲間づくりについて新しい見方・考え方を促すきっかけとなりました。さらに、宿泊体験学習で得た成果を学校生活や家庭・地域での生活に生かす視点が重要です。そのためはこれまでに以上に小・中学校の協力体制が欠かせません。

今後小学校と中学校が共通の課題意識をもち、解決のための方策を共有し、協働する取組を大切にしたいと考えます。そして、保護者、地域住民と手を携えて子どもたちの社会性向上を目指した取組を進めていきたいと考えています。



2. 野外炊事  
「みんなの役に立つ」「頼りにされる」経験を通して自己有用感をはぐくむために炊事活動を行いました。中学生が活動を指示しながら手本となって、材料の下ごしらえや火の調節を行い、小学生がを手助けする場面が随所に見られました。また、足りなくなった新や余った材料を互いに交渉しながら交換する場面もありました。



『中1チャンス』プランは、小学校と中学校が連携し、家庭・地域の協力を得て、子どもたちが仲間とよいかかわりを持ちながら、いきいきと生活できるようにサポートする「人間力の向上を目指し、社会性をはぐくむ」プランです。次の三つの柱から成り立っています。

#### 生活の中1チャンス

宿泊体験学習を核に、仲間と協力して取り組む課題解決型の活動を行います。また、道徳の授業では、生活場面に近いロールプレイを取り入れ、望ましい自己表現と他者理解の方法を学び、実践に結び付けていきます。その過程では、課題の解決に向けて話し合いや相談、決定など、コミュニケーションスキルを高めていくことを目的としています。

#### 学習の中1チャンス

小学校間、または小・中学校間で児童・生徒の学習スタイルを互いに理解し、円滑な学びの接続が図られるよう、相互の授業参観や合同の道徳授業などの授業交流に取り組んでいます。

#### 中学校区の子どもをはぐくむ会

各小学校区を母体として活動している青少年育成協議会等の地域団体と連携を図り、地域住民・保護者に向けて、地域での子育てや健全育成の視点で啓発活動に取り組んでいます。



小中合同での道徳の授業



はぐくむ会主催の講演会

『中一チャンス』プランについて



# 自然とふれあおう いろいろな人や

五十沢小学校  
5年生11名(男子5名・女子6名)

**妙高で  
自然宿泊体験!**

感動は笑顔に。

笑顔はエネルギーに。

エネルギーはチャレンジに。

チャレンジは感動に!

## Main Program

妙高アドベンチャープログラム  
民泊体験  
オリエンテーリング  
キャンプファイヤー  
はがきづくり

## 五十沢小学校 4泊5日のプラン

1日目	午前	出発 / 開村式
	午後	妙高アドベンチャー
	夜	秋の星座観察
	宿泊	妙高青少年自然の家(オリオン棟)
2日目	午前	対面式
	午後	民具の見学、苗名滝つぼウォーク
	夜	民宿のお手伝い、郷土料理作り、民話など各民宿毎の生活体験
	宿泊	農家民宿
3日目	午前	民具の見学、苗名滝つぼウォーク
	午後	民宿のお手伝い、郷土料理作り、民話など各民宿毎の生活体験
	夜	郷土芸能「春駒」体験
	宿泊	農家民宿
4日目	午前	お別れ会
	午後	オリエンテーリング 活動の振り返り(新聞づくり)
	夜	キャンプファイヤー
	宿泊	妙高青少年自然の家(オリオン棟)
5日目	午前	未来の自分へ「白樺のはがきづくり」
	午後	開村式 / 出発



### 体験活動を行うに至った背景

地域、学校の実態から  
五十沢地域は、美しい山々と河川に囲まれた扇状地であり、日本の南魚沼産コシヒカリが育つ、自然豊かな地です。ほとんどの家庭が三世代家族であるため、家庭内で子どもの世話をしてくれる人がたくさんいます。そのため、子どもたちの中には、大人に頼りすぎ、自立心が育っていない傾向が見られます。また、美しい自然に囲まれていながら、そのよさに気付いている子どもたちは多いとは言えません。さらに、農業体験については、田や畑の仕事をする祖父母が身近にいながらも子どもたちはその経験がほとんどないと言っている状況です。

五十沢小学校の学校づくりの基本理念は、『笑顔あふれる五十沢小』です。これを受けて、昨年度から「子どもたちに感動体験を」と願い、豊かな体験活動推進事業にチャレンジすることになりました。この活動には多くの感動があり、価値があることを実感していました。また、保護者も、今年度も継続して取り組んでほしいと強く願っていました。

### 活動のねらい

仲間や周囲の支えを受け、自分の思いや願

いの実現に自立的に取り組むこと。  
自然を生かし、豊かに暮らす杉野沢の人々の知恵からの学びを通して、ふるさと五十沢と自分とのかわりを改めて見つめ直すきっかけとすること。

### プログラム作成上の配慮事項

活動内容と教育課程上の位置づけを明確にすること。  
活動一日目と最終日の活動を、国立妙高青少年自然の家で行ったこと。  
初日は誰でもよい関係を築くことができるように、絆づくりの活動を、最終日には、体験によって得たことを子どもたち自身が自覚できるよう、振り返りとまとめの活動を設定しました。

### 毎日振り返り必ず行うこと。

一日の活動を終えて、自分のがんばりに気付くことが重要であると考え、設定しました。グループ編成を考慮したこと。

五年生の子どもたちは元々少人数であり、保育園からずっとメンバーの変わらない仲間たちです。その固定化した人間関係を崩したいと願いながら、子どもたちを各民泊先に二人ずつ分けました。

言語活動を重視したこと。

感動体験は、言語表現をすることで、より一層自覚化を図ることができると考えました。また、スピーチなど、音声言語で伝え合う活動も大切にしました。

### 活動の実際

一日目 妙高アドベンチャー(MA)インストラクターの金巻知子先生(金ちゃん)は、絶対に子どもたちを甘やかしません。次々とみんなが力を合わせなければ成し遂げることができない冒険を提案してきます。約束は一つ、「みんなが前に進むことができますよ」という言葉がけをすることでした。

子どもたちは、いつも、「協力したい」「助け合いたい」などと、言葉では格好いいことを言います。でも、実は全員の力で苦労して何かを乗り越えたという経験がありません。実際に、MAでは、何度チャレンジしても失敗の連続で、ようやく目標を達成することができました。

活動後の振り返りの時、子どもたちの言葉が変わりました。「協力」といった抽象的な言葉はなくなり、感想を具体的な例を挙げて言葉にできていました。子どもの学びは、与えられた知識からではなく、体験を通してなされることを実感しました。



# 特色ある実践校

二日目 民泊体験  
 いよいよ民泊体験の始まりです。杉野沢の皆さんは、温かく子どもたちを迎えてくださいました。活動内容は、民泊先の方にお任せしましたが、どこも子どもに合った活動を工夫してくださいました。

後日、子どもたちの振り返りや話、まとめ、記録写真などから分かったことは、子どもたちは、全く見知らぬ土地で、全く見知らぬ家族の中であって、たくましくがんばっていたということです。朝昼晩と食事の支度は自分でした。稲刈りや大根掘りなど、家族同様に仕事をさせていただきました。支えてくださった民泊先の方々、家族のように衣食住を共にし、できるだけ様々な体験をさせてくださり、温かい言葉がけや手紙などで、子どもたちの心に触れる瞬間をたくさんくださいました。本当に感動たくさんの日々でした。

四日目 民泊先の皆さんとお別れ会では子どもたち一人一人が照れながらも感想やお礼の言葉を述べました。その言葉から、わずか三日間のかかわりであったにもかかわらず、まるで家族のように絆を深めることができたことが伝わってきました。

四日目 自然の家にて  
 自然の家に帰ってきてからの振り返りでは、まず、民泊体験活動でのよかったことの共有をしました。学校や家庭では味わうことのないたくさんのことが、子どもたちの口から具体的な言葉で出てきました。

得た学びを言葉で整理することは、自分の成長をより実感することにつながります。

この五日間、子どもたちはもちろん、私自身もたくさんの人に出会い、支えられてきました。五日間を一緒に過ごした上越教育大学大学院の上野さん。自然の家の河野さんをはじめとした職員の方。金ちゃん。星博士の早川先生。妙高市役所の丸山さん。グリーンツーリズムの縮野さん。春駒を演じてくださった杉野沢の皆さん。そして、何よりも民泊先の皆さん。多くの方々に感謝しています。

## 成果と課題

体験を終えて、一人で自分の部屋で寝るようになった、自分で起きることができるようになった、食事の準備と一緒にできるようになったなど、子どもたちの変身ぶりがよく分かりました。

活動の成果を数値で検証するI・K・Rでは、生活の自立について、自分で起きるなど、できると答える子どもが多くなりました。しかし、自尊感情や自己有用感、数値が伸びたかという点、そうでもありません。この結果から考えられることは、子どもは自分をよく見るようになったのではないかと、ということ。自分はいたいした人間だと思っていたけれど、実は、たくさんの友達や大人に支えられていて、たいした人間ではなかった、ということ。これから思春期を迎える子どもたちにとって、大切な見方であると考えます。これ乗り越えて、自分を再発見してほしいと願っています。

この活動には、子どもを成長させる力があります。だからこそ、多くの学校がこの活動に取り組み、その価値を共有してほしいと願います。そのためには、受け入れ先の連携機能の整備と組織の確立は欠かすことができません。グリーンツーリズムを中核として、国立の施設と民泊先とが、すばらしい連携をもつてこの取組を進めていくことが大切であると考えます。

(文責 関 裕太郎)



## 長期宿泊体験学習のポイント

国立妙高青少年自然の家 主任企画指導専門職 河野 健一  
 小学生の高学年にとって、5日間親元から離れ、仲間と共に生活することはそれだけで大きなチャレンジ活動になります。日常生活とは違った環境の中で様々な体験をする。それは、子どもたちがたくさんのことを学ぶ機会になるのです。  
 今回の五十沢小学校の取組では自然の家での活動と民泊先での活動を組み合わせることで、よりたくさんの人とかかわる活動が設定されています。まずは自然の家で、新たな仲間作りの活動を行うと同時に自分たちの目的を確認し合います。その後、民泊先の方々と家族的なふれあいが行われます。食事の準備や民泊の仕事体験、農作業体験、家族との会話など全てが刺激的な活動になります。そしてまた自然の家に戻り、それぞれが体験したことを分かち合うことで、新たな気づきを得ることができます。このようにすることで、子どもたちは知識として知っていることを実際に体験したり、感じたりすることで、本当の学びへとつなげます。  
 また、文部科学省の調査によれば、3泊以上の体験が子どもたちに優しさや思いやりの気持ちを深め、連帯感や仲間意識を向上させることが効果として検証されています。1日の体験日数の違いが子どもたちに大きな意識の違いを与えるのです。

## 教育課程編成上の工夫

実施日時・時期	体験活動の概要	時間	教科等
4月～11月	「南魚沼産コシヒカリをつくろう」	27	総合・社会
10月上旬	「お願いの手紙を書こう」	1	国語
10月18日	「妙高アドベンチャー」	4	体育
10月18日	「星空観察」	1	理科
10月19日	「収穫体験学習」	2	総合
10月19日～21日	「農家民宿ホームステイ」 民宿や農作業の手伝い、杉野沢の暮らし体験	10	総合
10月20日	「郷土芸能交流会」	2	総合
10月21日	「民宿ホームステイ振り返り」	5	総合・国語
10月21日	「オリエンテーリング」	2	総合
10月21日	「キャンドルサービス」	2	特別活動
10月22日	「記念品づくり」	4	図工
10月下旬	「お礼の手紙を書こう」	1	国語
11月～12月	「妙高体験記録集作成」	4	国語
1月下旬	「妙高体験報告会」	6	総合





# 手と手 心と心

## 自然体験でつなぐ

### 妙高フレンドスクール

新潟県妙高市立

- 新井小学校
- 矢代小学校
- 斐太南小学校
- 斐太北小学校
- 姫川原小学校
- 新井南小学校
- 新井北小学校
- 新井中央小学校
- 妙高原北小学校
- 妙高原南小学校
- 妙高小学校

## 仲間といっしょに つくりあげるよろこび

妙高フレンドスクールは、異なる学校の児童が共同生活を送ることで、コミュニ

### フレンドスクール実施までの道のり

妙高フレンドスクールは、自然体験活動をメインとした長期宿泊キャンプである。平成九年に、妙高村（現妙高市）の大鹿小学校が始めた五泊六日の通学型キャンプがその原型となる。国立妙高青少年自然の家（以下「自然の家」）に宿泊し、学校に通学するというものであった。その後、地域の小学校が加わり、合同で行うようになった。こうした変遷を経て、平成十九年には、自然の家に完全滞在型のスタイルとなった。

平成二十年からは、妙高市教育委員会が舵取り役となり、全国でも例のない妙高市内の十二の小学校六年生全員が三ブロックに分かれて参加するスタイルとなった。ここでは三年目を迎えるフレンドスクールの取組について紹介したい。

### フレンドスクールの歩み

妙高フレンドスクールは、異なる学校の児童が共同生活を送ることで、コミュニ

ケーション能力を育成し、中学校入学時における円滑な人間関係の素地をつくることを目的として、中一ギャップの解消を念頭に置いてスタートしている。

妙高フレンドスクールの実施に向けての重要な事項を四つ紹介する。

第一は実施のための体制づくりである。長期の宿泊体験では、子どもたちの宿泊にともなった生活面のサポート、様々な自然体験活動のサポートとして、それらに熟知した全体指導者（コーディネーター）が必要である。これに対応するため、外部機関（自然の家・自然学校ねぎぼつず）との連携を図り、妙高市教育委員会と学校、外部機関を含めた妙高フレンドスクール実行委員会を立ち上げ、その運営にあたっている。

第二は学校現場の理解を得ることである。初年度は、今まで長期宿泊体験の経験がない学校現場では、学校行事への影響、健康安全面の問題、担任の負担、授業時数確保など、妙高フレンドスクール実施にともない予想される様々な問題を挙げ、不安

### Main Program

妙高アドベンチャープログラム  
森の基地づくり  
火山学習 夢見平探検隊  
キャンプファイヤー

### 第1ブロック 5泊6日のプラン

1日目	午前 午後 夜	妙高アドベンチャー ソーシャルスキルトレーニング 班活動
2日目	午前 午後 夜	火山学習 自主学習 班活動
3日目	午前 午後 夜	夢見平探検隊 家族への手紙 自主学習 班活動
4日目	午前 午後 夜	森の基地づくり 自主学習 班活動
5日目	午前 午後 夜	びっくりランチ 自主学習 キャンプファイヤー
6日目	午前 午後	クラフト(カラマツくん)



# 特色ある実践校

を感じる学校が多くあった。実行委員会は、その一つ一つの問題を真摯に受け止め、計画の改善に努めるとともに、長期宿泊体験の事例をもとに、その有効性について説明し、理解を求めてきた。

第三に保護者の理解と支援を得ることである。各ブロックごとに説明会を開き、具体的な活動内容について詳しく説明した。また、フレンドスクール通信、HP等による情報発信も随時行った。

最後は実施日の調整である。各学校の行事との関わりと自然の家の受け入れ状況を考慮し、調整を行い、学校現場の比較的負担の少ない6月中旬～下旬、8月下旬～9月上旬にかけて設定した。

## 「オモイ」を「カタチ」に

子どもたちが体験するプログラム（第一ブロック）を10ページに示した。プログラムは、担任が各ブロックの児童の実態を考慮し、「オモイ」を「カタチ」にできるように構成している。具体的には、自然の家の実態やねらいに合わせてアレンジして作成している。詳細についてはコーディネーター、自然の家の職員を含めたブロックごとの会議の中で調整し、決定している。プログラムの内容は、授業時数確保の課題を解決するために、教育課程に対応できるように、実施のプログラムと教科との関連を図っている。

## 体験を通して

初日の開会式。言葉がけに不安そうな面

持ちの子どもたち。同じ班で、知っている顔は全くない。緊張している表情が見え隠れする。

はじめの活動は、妙高アドベンチャープログラム。人間関係づくりを目指した活動プログラムである。

「今日は初めて班のみんなに会ってすごく緊張したけれど、妙高アドベンチャーを通して、班の人の名前が覚えられてよかった。略 明日は男子と仲良く話ができるようにしたいです」と日々のできごとを想いのまま綴る子どもたち。少しずつ心が開かれていく。

「今日は体の調子が悪くて元気がなかったけど、みんなが元気をくれました。略 そばにいた友達も具合が悪かったようだったけどがんばっていました。少し見習わなければと思いました」

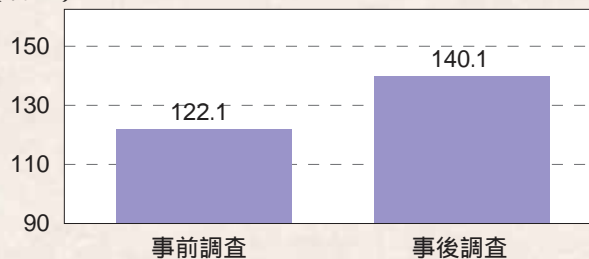
活動を経るごとに、子どもたちの様子に変化が見られる。仲間のがんばる姿に感動し、自分を見つめ直す子どもたち。意見のぶつかり合いの中から、新たな発見をする子どもたち。自然の美しさ、雄大さに素直に感動する子どもたち。ひとつひとつの体験活動が、子どもたちを大きく成長させる。

I K R（生きる力）の評価用紙の集計結果にも、その成長が現れている。特に「心理的社会的能力」「徳育的能力」の変容が著しかった。

運営上、まだまだ改善を加える部分は多々ある。しかし、大きく成長する子どもたちの姿がそこにあることも事実である。みなさんの目で、その姿を実感してほしいと強く願うばかりである。



(得点) I K R(生きる力)の評価用紙の集計結果



## 生きる力を測定する「I K R 評価用紙（簡易版）」

筑波大学の橋教授らが「生きる力」の変容を測定するために開発したアンケート用紙です。「生きる力」を「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の三つの指標に分類し、更にそれらを14指標に分類し、指標ごとに2項目の質問を設け（例えば「いやなことはいやとはっきり言う」「人の心の痛みがわかる」など）「とてもよくあてはまる（6点）」から「まったくあてはまらない（1点）」の6段階評価で回答を求める評定用紙です。

# 全国で初めての「妙高フレンドスクール」



妙高市教育委員会教育長 濁川 明男  
市内全小学校の6年生を対象に、進学する中学校別にブロックに分け、学級も学校も解体して生活・活動グループを編成し、1週間の合宿生活を実施するのが妙高フレンドスクールである。昼間は野外での学習活動、夜は室内でグループ活動を展開する。この事業には青少年自然の家の専門職員をはじめ、各校の担任と管理職、市教委の職員、さらにはNPO、教員養成大学の学生スタッフが参画する、正に学社融合の大事業でもある。グループとはいっても互いに初対面の仲間どうし。児童には、「1.積極的に人と関わる力を伸ばし、多くの友達をつくろう 2.家を離れても1週間やりぬく逞しさを養おう 3.自分のことは自分でやりぬこう」を十分周知しておく。プログラムも最初に人間関係づくりのための妙高アドベンチャーを位置づけ、相互のふれ合い活動を重視する。翌日からは登山や自然散策など、協力が必要なハードな内容を配置している。

この事業を開始して以来、中学校に進んで不登校に陥る生徒の数は激減してきている。事業開始時には、「子どもたちに寂しい思いをさせて、どこが教育的というのか!」との保護者の反発がかなりあった。そして、3年目、今は多くの保護者が、児童の大きな変容を受け止めてくれている。2泊3日程度なら耐えていれば家に帰れる。しかし、長期であるからこそ、自らコミュニケーションをとって居場所づくりをせざるを得ない。子どもたちは葛藤しながらも何とか立ち向かい、自らの変容をメタ認知していくのである。帰宅して、新たにできた他校の友人のことや、懸命に挑戦した活動のことなどを熱っぽく語る児童の姿に、保護者も大きな成長を感じ取ってくれているようである。





# 幼児が夢中になる！

## 調査研究事業の概要

本事業は文部科学省の青少年体験活動総合プラン「子ども・若者支援のための体験活動推進事業」の委託を受け、三カ年計画の一年目として実施した。

研究のねらいは観察を通して幼児期における自然体験活動プログラムの分析・考察を行い、発達段階に即したプログラムを開発すること。幼児の遊びを通して、自然の家における教育的資源(豊かな自然環境・活動エリア・専門スタッフ等)の有効性を検証することである。

自然環境と幼児の関係性を、平成二十年に告示された幼稚園教育指導要領の中では「環境」の領域3・内容の取扱(2)「幼児期において自然の持つ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接ふれる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然のかかわりを深めることができるよう工夫すること」と記載されている。

これを受け、自然の家の教育資源を生かして近隣の保育園・幼稚園と連携を図りながら調査研究を進めてきた。また事業の質を高めるために、事業

運営会議を設置し専門的視点からアドバイスを頂いている。

## 幼児の観察から見えたこと

今年度九月～十一月にかけて六つの保育園・幼稚園の観察を行った。本ページ上記の写真から分かるように、子どもたちは瞳を輝かせ生き生きと活動していた。子どもたちが自然の中で表情や動きが刻々と変化し、夢中になる様子が見られた。

### 事例一

#### 新たな発見が興味関心を高める

園庭では見られない木の実を扱う場面で、A君は指で潰そうとしたが潰れず、匂いを嗅ぎ、歯でかじって中身を確かめた。一方Bさんは木の棒ですり潰し中身を確かめた。  
「先生何これ！」と聞く。  
教師は、紫色だけど、何だろっね」と発言。  
「えさだよ」とA君が発言。教師は、そこかもしれないね。何のえさかな。後で調べてみようか」と発言。「うん！」とA君はうれしそうに答えた。隣のBさんも、私も調べる」と発言し、大切に木の実をポケットに入れた。





## 幼児の遊びを引き出す 環境がここにある！

平成22年度 調査研究事業

「幼児期にふさわしい自然体験活動プログラムの開発」  
文部科学省受託事業(青少年総合プラン)

「このように新しい発見から物事に積極的に関わる姿が見られた。木の葉の中を自分なりの方法で確かめ、自分の物として最後まで扱っていく。その過程において教師が子どもの活動を認め、さらに活動を広げたり深めたりする言葉かけを行うことで、子どももたちの興味関心が深まり持続することが分かった。」

### 事例一 遊びの発展が夢中にさせる

木に乗って遊ぶ子どもたちは「これ、海賊船だよ!」と船に見立てて遊んでいる。倒木を集め、船の先端に枝を重ね加工しながら俺、船長だ!、「出発するぞ!」、「これは剣だ!」

などのストーリーが作られ遊びが発展していく。

このように、想いのままに自然物を使い表現することは、子どもにとって楽しい活動であり、思考力や表現力の素地が育まれる姿である。

### 国立妙高青少年自然の家 豊かな教育資源

観察を進めていくと、自然の家には、幼児期における自然の中での遊びを促進する教育資源が豊かであることに気づく。子どもが伸び伸びと思いつき遊べる豊かな自然環境がある。子ども自身の手で作成し、遊べる自然素材(木の実や樹木など)が豊富で多様である。子どもたちは、諸感覚をフルに活用して興味関心の趣くままに夢中になって関わる。新しい発見に「喜一憂し、知ること・触れること」できることの実体験を通してさらに自然や遊びについての興味関心が高まっていく。

これらの過程の中で子どもを尊重し、意欲を引き出すような言葉かけを行い、主体的に遊べる環境作りを総合的にしていくのが援助者の役割である。

このような教育資源を生かし、より幼児にふさわしい自然体験活動の学びの場を確立していくのが自然の家の重要な役割の一つであると考え。

(事業担当 室井 修一)

### 自然との出会いが育てる豊かな感性



妙高市教育委員会  
園指導主事 / 宮田友子

幼児期に自然に出会い触れることは、日頃バーチャルな情報社会にいるからこそ大切な経験であることは言うまでもない。しかし、妙高の豊かな自然にかこまれながらも家庭や地域社会、園において自然とのかかわりが薄れてきているのが現状である。

自然物はいろいろな見立てができる。そしてそこからさまざまな感覚が引き出され、いろいろな気づきを子どもたちにもたらす。この気づきこそが豊かな感性を育てるものと思う。

遊びの中で自然と一体になり、自然を生かして楽しむ体験を四季折々に繰り返していくことが幼児期には必要である。ここ妙高青少年自然の家にはそんな豊かな自然がいっぱいである。

自然の家職員と連携を図りながら、「仲間と一緒に夢中になれる」そんな体験を存分にさせたいものである。



# この夏

## 出会える

# 新しい自分

14泊15日  
のチャレンジ

## 妙高ジュニアアドベンチャー2010

この事業は、小学5・6年生を対象として、次代を担うリーダーの育成を目的とした取組です。今年度は2年目を迎えました。

国立妙高青少年自然の家では、「妙高リーダー5つの力」を次のような力とらえ、活動を組みました。

「妙高リーダー5つの力」とは、  
 ① 集団内の人間関係をより円滑にしよとする力  
 ② 困難に立ち向かおうとする力  
 ③ 自ら考え行動する力  
 ④ 集団を目的やねらいに導こうとする力  
 ⑤ 創造力を働かせ工夫して課題を解決しようとする力

を言います。参加者が、それらの力を発揮する場面はすべての活動の中にあつて、その中でも、活動によって特に引き出される力や、相互に関連をもち先行して現れる力、他の力が前提にあつて発揮される力があることも、昨年度の取組から明らかになっていました。

そこで今年度は、「妙高リーダー5つの力」を効果的に引き出すために、ステージ制を取り入れながら、ステージごとに特に引き出したい力を設定し、プログラムデザインを行いました。左ページがそのプログラムデザインです。

### 日本一の信濃川で日本一の体験と感動を

国立妙高青少年自然の家でのトレーニングキャンプから始まり、信濃川源流の甲武信ヶ岳山頂の登山、一人で川沿いを歩くソロウォークやグループで計画を立て活動するサイクリング、川に親しみ、ボートのスキルを身につけるラフティング、仲間と協力して目的地まで向かうEポート（救助用ポート）、参加者だけの力でゴールを目指す手作りいかだなどの活動を通して、参加者は新しい自分を発見し成長していきました。最後の信濃川河口では、自分たちのたどってきた信濃川をふりかえり、仲間とともに感動を分かち合うことができました。

### 第1 ステージ 7月 25日(日)~27日(火)



いよいよ活動が始まりました。初めて合う仲間たちと対面し、緊張しながらもわくわくしたキャンプの始まりです。まずは、本格的な活動に入る前のトレーニングキャンプです。このキャンプでは、炊事やテント泊、MTBなど様々な活動を実施します。特に、「集団内の人間関係をより円滑にしよとする力」を引き出します。

活動場所は国立妙高青少年自然の家です。新しい仲間と出会い、このキャンプに必要な様々なスキルを身につける場面で、相手のことを理解しながら互いに協力する場面が多いからです。テントを立てたり、炊事をしたりする活動では、必然的に会話が生まれ、互いに人間関係を保ちながら行動しよとします。



### 妙高ジュニアアドベンチャー2010活動予定表

日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	入浴	洗濯	宿泊場所
第1ステージ				受付・開式	アンケート	アイスブレイク	昼食	マインドマップ学習	アイスブレイク	夕食	計画作成(マインドマップ)								自然の家
				朝食	サイクリングトレーニング	昼食	サイクリングトレーニング	テント設営	炊事	計画作り									自然の家
				炊事	計画作り・洗濯	昼食	バス移動	炊事	計画作り										白木屋
第2ステージ				炊事	トレッキング(信濃川源流甲武信ヶ岳)	昼食	トレッキング(信濃川源流甲武信ヶ岳)	炊事	計画作り										白木屋
				炊事	(神山・横沢)リバートレッキング	昼食	(神山・横沢)リバートレッキング	炊事	計画作り										白木屋
				炊事	電車移動	MTB:各グループの計画による(グループチャレンジ)	テント設営	炊事	計画修正										白木屋
第3ステージ				炊事	MTB:各グループの計画による(グループチャレンジ)	夕食	計画修正												白木屋
				朝食	MTB:各グループの計画による(グループチャレンジ)	テント設営	炊事	計画修正											白木屋
				炊事	ラフティング	昼食	ラフティング	移動	炊事	計画修正									白木屋
				炊事	Eポートによる川くだり	昼食	Eポートによる川くだり	テント設営	夕食	計画修正									白木屋
				朝食	Eポートによる川くだり	昼食	Eポートによる川くだり	夕食	計画修正										白木屋
				朝食	Eポートによる川くだり	昼食	Eポートによる川くだり	炊事	計画修正										白木屋
第4ステージ				炊事	いかだ作り	昼食	いかだ作り	炊事	計画修正										白木屋
				炊事	手作りいかだによる川くだり	昼食	手作りいかだによる川くだり	河口へ	夕食	計画修正									白木屋
				朝食	バス移動	アンケート等	閉式												白木屋

### 第2 ステージ 7月 28日(水)~29日(木)



活動場所は全長367km、日本一長い川「信濃川」です。源流から河口まで下る長期移動型チャレンジキャンプを実施しました。山梨県、埼玉県、長野県の3県の県境、



# プログラムデザイン

妙高ジュニアアドベンチャー2010

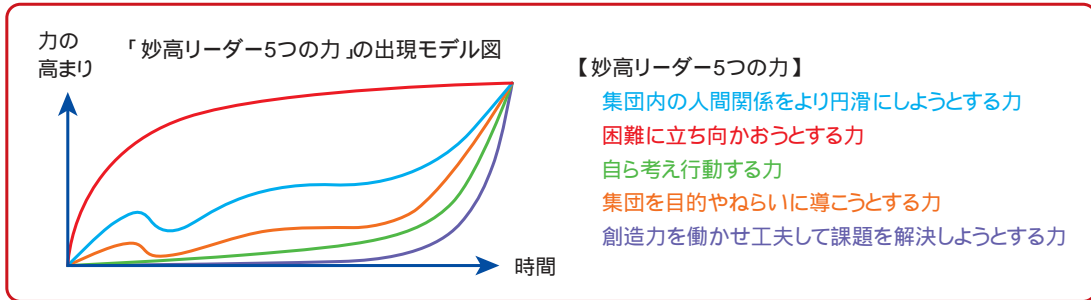
~この夏 出会える 新しい自分~

昨年度の取組から、リーダー性の素地となる5つの力「妙高リーダー5つの力」の出現には、次のような特徴があることが明らかになった。

- ・「妙高リーダー5つの力」は、活動内容にかかわらず、すべての活動場面で発揮される。
- ・「妙高リーダー5つの力」には、活動内容によって突出して現れ、伸長する力がある。
- ・「妙高リーダー5つの力」は、相互に関連があり、先行して現れる力や他の力が前提にあって発揮される力がある。

また、プログラム全体〔第1ステージから第5ステージ〕を通した「妙高リーダー5つの力」の出現タイミングとその度合いを「妙高リーダー5つの力」の出現モデル図〔下図〕のようにまとめることができる。

今年度は、「妙高リーダー5つの力」をより発展的に出現させることに重点を置き、以下のようにプログラムデザインを行った。



## CAMP KEYWORD

**スパイラル**...同じ活動を繰り返し実施することにより、子どもが自ら見いだした様々なスキルを次回に生かすことができる。また、スタッフが、そのことをふまえたかかわり方(スキルを身に付けさせる 練習させる 任せる)で子どもと接することができる。

**ステージ制**...長期キャンプを5つに分け、それぞれを明確なねらいをもったステージとして実施する。活動場面や内容を変えることで、意欲の持続と多様な野外活動の体験ができる。ステージが進むにつれ、子どもの主体性や自主性が発揮できるようにスタッフのかかわり方も工夫している。

## 日本一の信濃川探検 源流から河口まで 367km

	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第5ステージ
アクティビティ	スキルトレーニング キャンプ・MTB コミュニケーション	源流探検 6km 甲武信ヶ岳登山 1km ソロハイク 10km	コース選択式 長距離サイクリング 190km	ラフティング 15km Eボートによる 川下り 110km	手作りいかだによる川下り 7.5km 河口までチームハイク 1.5km
妙高5力	集団内の人間関係をより円滑にしようとする力	困難に立ち向かおうとする力	自ら考え行動する力	集団を目的やねらいに導こうとする力	創造力を働かせ工夫して課題を解決しようとする力
育成のポイント	トレーニングの目的が明確であることから互いの関係に目を向けることができる	源流地点に到達した後、山頂を目指すかどうかを選択する	コースを選択すること、休憩時間やペース配分を考えること	息を合わせてボートを漕ぐ自然とかけ声や気持ちのそろいになる	これまでの体験や思いを生かしていかだを手作りする全て自分たちの力でやり遂げる
期待される子どもの姿	・進んで仲間に声をかける ・仲間と肯定的なかかわりを心がけている ・自分の考えや気持ちを伝える	・苦しくても甲武信ヶ岳の山頂を目指す ・ソロハイクを最後までやり抜こうとする ・やり抜いた喜びを味わう	・コース取りについて自分なりの考えをもつ ・休憩のタイミングについて意見を言う ・グループで決めたことに協力的に取り組む	・Eボートの操船に進んでかかわっている ・仲間に励ましの声をかけている ・気持ちを合わせる大切さを感じる	・いかだ作りのアイデアをもっている ・アイデアを実際の製作に生かしている ・自分や仲間のがんばりを認める
スタッフのかかわり	・ するといいよ。 ・ 次は、これをしよう。 ・ だと思おうよ。	・ 持ち物、服装、日程はこうなっています。 ・ ここは危ないよ。 ・ 困っていることはありませんか。	・ が約束だよ。 ・ グループで相談して決めよう。 ・ 見守っているよ。	・ していたことがよかったんだね。 ・ の時は、どうしたらいいかな。 ・ それでやっごらん。	・ みんなで、やっごらん。 ・ まかせたよ。 ・ それでいいよ。
評価の視点	「妙高5力」を見取る 具体的な視点・評価方法	自己責任感 危機意識 チャレンジ精神 意欲	自主・自立 思考・判断 省察・アクション	規範意識 統率力 目的意識	創造力 情報収集 企画・調整

参加観察・マインドマップ・振り返り作文・IKR





標高2475  
Mの甲武信ヶ岳の山頂がスタート地点です。山頂に落ちた雨水が山に染み込み、「千曲川・信濃川源流」の湧き水となって中腹に湧き出ます。その源流の水をペットボトルに詰め、味わい、チャレンジが始まります。特に「困難に立ち向かおうとする力」を引き出します。甲武信ヶ岳山頂までの登山や千曲川沿い約15kmのソロウォークなど肉体的にも精神的にも困難な状況の中で、それに打ち勝つために考え行動していきます。ゴールの設定や、めあての確認をすることで足の痛みや体力の限界を乗り越えることができました。

**第3** 7月 8月  
ステージ 30日(金)~1日(日)



特に「自ら考え行動する力」を引き出します。千曲川、信濃川沿い約190kmの道のりを自転車です3日間進みます。ここでは、地図を頼りにどの道をどのように進むかを自分たちで決め、目的地まで向かいます。ペース配分や休憩の取り方を考えないと目的地に到着できない状況で、どうしたらよいかを考え、行動していきます。

**第4** 8月  
ステージ 2日(月)~5日(木)



「集団を目的やねらいに導こうとする力」を引き出します。活動は、川の中に入るラフティングとEポートによる川下りです。長期のキャンプ活動も終盤を迎え、参加者はそれぞれに自分の思いや願いを再確認し、それに向けて活動をしていきます。そんな中、それぞれの思いや願いのすれ違いが起き、衝突し、けんかになることもあ

**2つのスパイラル(繰り返し)の連鎖)で力を磨く**  
【活動の繰り返しにより、日々力が高まるように設定】

3日間のサイクリング活動。同じ活動を日々改善しながらよりよい活動にしていく。1日目は約60kmを移動しました。参加者は時間配分がうまくできず、日も落ち辺りが暗くなったため、自転車を降りて暗い道を引き張って目的地まで到着しました。次の日は休憩時間の取り方を考え行動しました。約85kmの道のりです。短い休憩と長い休憩を組み合わせながら、1日目よりも早く到着することができました。しかし、予定到着時刻よりも遅くなり、やはり薄暗くなってからの到着となりました。いよいよ3日目です。距離は1日目と同じ約60km。参加者は、休憩を入れるタイミングや休憩の取り方を工夫しました。そして見事に予定時刻に到着することができました。小さな改善が大きな結果を生むことを学びました。3日間のEポートによる川下り。困難度が日々上がっていく。1日目はスタッフも一緒に活動し、必要に応じて指示を出します。2日目、スタッフはできるだけ指示を出さず、子どもたちに任せて活動しました。3日目、スタッフは、安全面だけを気を付けて、ほとんど子どもたちに任せます。Eポートをひたすら漕ぐ活動の中で、息を合わせると早く進むことや声を出すこと、一体感が増し、うまく進むことを学びました。同じ活動でも条件が変化することで、より参加者の主体性が引き出されました。



ります。それを解決するための話し合いをしながら参加者はゴールを目指すことにります。





特に「創造力を働かせ工夫して課題を解決しようとする力」を引き出します。この力は、の力が土台になって発揮されると私たちは考えます。今回は手作りいかだを作るときと、そのいかだで川を下るときに見られました。いかだを作る際それぞれの思いや願いをいかだに書きました。それを書くことで、新たに自分のめあてやグループのめあてを確認し、ゴールを目指しました。グループごとにかくにかくで出発したあとみんなで一緒にゴールしたいという願いのもといかだをつなげたり、互いに励まし合ったりしながら課題を解決しようとしていました。

**第5** 8月  
**ステージ** 6日(金)~8日(日)



活動中、参加者は毎日ふりかえりを行い、自己を見つめ、自分の考えや思いをグループ内で発表し合い互いの思いや願いを確認していきます。そして、次の日のめあてを決定します。

また、スタッフはこの15日間の初めは積極的に関わり、気付いたことや考えてほしいことなどを伝えます。しかし日が進むにつれて参加者に任せ、自ら考え行動できるように支援的な立場をとっていきます。そのつうすることで参加者は、人任せではなく、自ら考え行動する意識を強くしていきます。

このように、より困難な場面を設定することで参加者は、身に付けた力を最大限に発揮し活動に取り組みます。困ったことがあれば仲間と相談し、話し合いで解決をします。そうすることで場面ごとに一人一人がリーダーとしての力を発揮し、課題を解決する姿が見られるのです。

日本海に沈む夕日を見つめながら、参加者は自分の成長を確かに感じ取っていました。15日間の体験は一生の思い出になるだけでなく参加者の生き方にも大きな影響を与えたと思います。

活動中、参加者は毎日ふりかえりを行い、自己を見つめ、自分の考えや思いをグループ内で発表し合い互いの思いや願いを確認していきます。そして、次の日のめあてを決定します。

また、スタッフはこの15日間の初めは積極的に関わり、気付いたことや考えてほしいことなどを伝えます。しかし日が進むにつれて参加者に任せ、自ら考え行動できるように支援的な立場をとっていきます。そのつうすることで参加者は、人任せではなく、自ら考え行動する意識を強くしていきます。

このように、より困難な場面を設定することで参加者は、身に付けた力を最大限に発揮し活動に取り組みます。困ったことがあれば仲間と相談し、話し合いで解決をします。そうすることで場面ごとに一人一人がリーダーとしての力を発揮し、課題を解決する姿が見られるのです。







# MYOKO 活動プログラム 体験会

「妙高青少年自然の家の利用を予定している」「利用を考えている」「自然体験活動に興味がある」みなさん！「妙高の自然に親しむ会」の家族会員のみなさんが気軽に妙高の活動プログラムを体験していただけるように年4回ほど実施しています。

## MYOKO活動プログラム体験会とは...

1日または、1泊2日の中に妙高の活動プログラムが時間によって組み込まれています。

- 例 13:00～ 野外炊事  
18:30～ キャンプファイヤー  
19:30～ 星座観察・ナイトハイク

**特典** 参加のみなさんからは、興味がある活動、やってみたい活動を選んで参加が可能です。すべての活動はもちろん、1つの活動プログラムだけの参加もOKです。日帰り、宿泊も選べます。家族での参加も可能です。  
\*家族の参加の場合、妙高の自然に親しむ会の会員登録が必要となります。



- 実際のご利用の時に指導する活動プログラムを体験できます！
- 指導者の方に、活動に対する知識や安全管理、準備や後片付けなどを理解していただき、スキルアップをサポートします！
- 指導者の方が見通しをもてるよう、活動に対する疑問を解決します！
- 体験を確実に深める方法や日常生活につなぐ方法を提案します！

### 利用者の声

お試しプランに参加して

私は、新潟市内で「フリースクールP&T」を運営する理事の一人ですが、子どもたちに「キャンプがしたい」「合宿がしたい」と言われても、私自身がキャンプの経験がないので、どうすることもできないでいました。

そんな時、当校へ「お試しプラン」を含む妙高青少年自然の家の利用案内が送られてきたのです。まずは、自身で体験を...と思い、我が子と友人の子ども4人を連れて、5月のお試しプランに参加しました。

妙高山の美しさ、森の存在感に圧倒されつつも、子どもたちのほしやぐ様子に、私も自然と笑顔になりました。参加したプログラムは細かいところまでしっかりと配慮されていて感心するばかりでした。

新潟に戻り、とにかく良かったと力説し、理事をもう一人巻き込んで再び6月のお試しプランにも参加しました。一人でプログラムを体験し、この感動を当校のメンバーと共有したいと思い、その場で9月に当校の合宿することに決めました。また、その時、お試しプランと一緒に参加していた上越教育大学の学生の皆さんと体験を通して、自然体験活動について語り合う機会があり、そのことが当校の合宿へのボランティア参加に結びつくこととなり、うれしさが倍増しました。

私たちはここでサポートを  
皆様をサポートを  
すること！





## 野外炊事 (びっくりランチ)

野外炊事は、決められたメニューをグループで協力し、役割を分担しながら調理していく活動です。妙高には、カレーライスを始めとした17種類のメニューがあります。

また、びっくりランチやエコ野外炊事などの課題解決型野外炊事も体験できます。



## 秘密基地づくり

秘密基地づくりは、協力し合って作業する喜び、完成時の達成感、冒険心など子どもにとって魅力ある活動です。

実際には、完成に5～6時間を要しますが、ここでは、ロープワークの講習を含め、小屋づくりの一部を体験していただきます。



## 妙高アドベンチャー プログラム

妙高アドベンチャープログラムは、心の教育プログラムです。

実際には、安全性や効果に照らして講習会を受講された指導者でないと指導はできません。

ここでは、子どもたちが自信、優しさ、強さなどを高めてもらえるようなアクティビティを体験していただき、妙高アドベンチャープログラムのよさに触れ、子どもたちの指導の手助けとなるきっかけをつかんでいただきます。

## キャンプファイヤー

キャンプファイヤーは、仲間同士の親睦を図る、キャンプへの動機付けとするなど指導者の「おもしろい」や参加者の「ねがい」から作り上げていきます。

ここでは、薪の組み方や後片付けの仕方、迎え火・送り火のつどいの紹介、交歓のつどいでのレクの一部を体験していただきます。



## 冬季のプログラム

冬季の活動プログラムも体験していただけます。かまくら・雪灯ろうづくりやスノーシューハイキングなど、雪の活動での楽しみ方や留意点などを皆さんにお伝えしながら、雪の妙高で、思う存分、雪に親しんでもらいます。

みなさんからは  
お試しプランと呼ばれ  
親しまれています！

## 他にも...

星座観察やナイトハイキング、各種クラフト、源流探検などを体験できます！

妙高の活動プログラムは、HP からご覧いただけます。<http://myoko.niye.go.jp/>

\* 源流探検、スノーシューハイキングは、vol.4 でも紹介しています。

9月の合宿を1泊2日で実施することに決めましたが、私自身、プログラムづくりは全くわからない状況でした。自分たちの体験を頼りに、妙高青少年自然の家の職員の方と打合せをしながら、一つ一つ考えていきました。よく「体験した者しかわからない」と言われますが、本当にその通りだと実感しました。幸い、私たちには、すべての活動プログラムにおいて、経験豊富な上越教育大学の学生の皆さんたちがボランティアとして関わっていただけということ、思い描いた通りの2日間のプログラムを作ることができました。

合宿へ向けての準備を進めるうちに、全国各地で開催されるリースクールフェスティバルの時期と重なることから、フェスティバルの一環として開催していく方向となり、新潟県内のリースクール3校「葵学園」「I・CAN」「P&T」の合同で、無事、実施することができました。

妙高青少年自然の家のおかげで、自分たちの思い描いていた以上のプログラムが実施できたと思います。子どもたちは、五感をフル活動させて自然を感じ、他者との共存を経験し成長するいいきっかけになったと思います。感謝でいっぱいです。ありがとうございました。



## 赤井 一繁

妙高自然の家は、入口から玄関まで長い取り付け道路があります。さて、この取り付け道路の長さは何メートルでしょう？  
約100メートル 約300メートル 約800メートル



## 大野 隆司

自然の家は、雪の妙高というキャッチフレーズで全国の青少年の体験活動をサポートしています。冬は、スキー・雪上活動などの活動プログラムを体験できます。アルペンスキーは大変人気がありますが、主に利用されている自然の家のすぐ上にあるスキー場の名前は何でしょう？  
妙高ホワイトパーク 妙高スノーパーク



## 石黒 健也

自然の家には、オリエンテーリングという活動があります。これは、施設周辺にあるコースを辿り、各ポイントに設置された看板を見つけ、記号をシートに記入しながらゴールをめざすというものです。安全に活動するためには注意が必要です。活動の際、やってはいけない行動はどれでしょう？  
一人でコースを回る ポイントを見つけない 一人でコースを回る ポイントを見つけない



## 風間 健一

自然の家の周りには、クマザサがたくさん生えています。クマザサを漢字で書くときどれでしょう？  
葉のふちが白くくまどられていから「隈笹」 熊がよく食べるから「熊笹」 熊本県の球磨(くま)地域にたくさん生えているから「球磨笹」



## 今井 沙織

自然の中でたくさん遊んで汗をかいたら、入りたいのは「お風呂」です。自然の家には大浴場があります。さて、その名前の組み合わせは次のうちどれでしょう？(ちなみにお風呂の時間は17:20~22:30までです。)



## 川口 早織

冬の森の中は、動物の足跡や樹木の冬芽など、歩いていただけでもすてきな発見がいっぱい。さて、雪深い冬の森を歩くのに欠かせない、この道具はいつたいたいんでしょう？  
かんじき 長靴 スノーシュー



## 岩井 洋

色々な種類の樹木のある自然の家ですが、みなさんをお迎えするようにロータリー付近に2本の白い樹木があります。何という木でしょう？



# MYOKOのひみつ

妙高には、みなさんの知らないひみつがいっぱい。妙高青少年自然の家での生活や施設、活動プログラムについて、職員からクイズ形式で出題します！みなさんは、いくつ、わかりますか？クイズの答えは、妙高に来てからお楽しみ！事務室にお越しください。

## 長町 一郎

自然の家の活動エリアの面積は、東京ドーム何個分でしょう？  
28個分 8個分 108個分



## 河野 健一

自然の家の敷地内は、国立公園内のため直に火をたくことができません。そこで、キャンプファイヤーの時は鉄板を敷き、台を置きその上で火を燃やす形をとっています。ここで問題です。自然の家でキャンプファイヤーできる場所はいくつあるでしょう？  
7つ 8つ 9つ



## 中村 由佳

妙高自然の家は、冬になると、こくま広場に積雪計が立ちます。さてこの積雪計は、何メートルまで計ることができるでしょう？  
3メートル 3メートル50センチメートル 4メートル







自然の家のシンボルマークは、MYOKOのMの小文字mをベースに三山をあらわし、子どもたちがのびのびと力強く育つことを願ってつくられたものです。さて問題です！この三山のうち、左から妙高山、火打山とならぶもうひとつの山は何でしょう？

**望月 美羽**



**星野 雄軌**

自然の家では、ソリコースが5つあります。新しくできたソリコースはどれでしょう？  
カラマツコース しらかばコース ミミちゃんコース



**南雲 晋**

今年も妙高でもツキノワグマの目撃情報が例年に比べて多かったのですが、クマの好物でもあるナラの木からできる木の実は何でしょう？  
クルミ ドングリ とちの実



**二瓶 昭夫**

自然の家事務室において、ご希望された方には、自然の家のステキな絵葉書を無料でプレゼントしております。さて、その絵葉書の種類は何種類あるでしょう？  
4種類 10種類 16種類



**水澤 哲**

玄関ホールに設置されている「お天気ガイド」では、いつの天気を予報しているでしょう？  
約8〜10時間後の天気 約12〜16時間後の天気 約24〜28時間後の天気



**湯浅 昭司**

自然の家には、様々な活動プログラムがあります。その中でもっともたくさんの人に利用されているプログラムは何でしょう？  
アルペンスキー 野外炊事 キャンプファイヤー



**野村しのぶ**

コスモス銀河棟の玄関ホールにある「モリゾー」人形は、とある機能をもっています。それはなんでしょう？  
売店 監視カメラ 雪冷房



**松木 光永**

間違い探し 写真は源流探検等を行う際の基本的な格好ですが、明らかな間違いがあります。どこでしょう？



**葉山 憲一**

自然の家は、妙高山のふもとにあります。さて、標高何メートルのところに自然の家は建っているでしょう？  
約333メートル 約580メートル 約634メートル



**室井 修一**

日本百名山にも選ばれ、自然の家のシンボルでもある「妙高山」の標高は何メートルでしょう？  
2462メートル 2454メートル 1909メートル

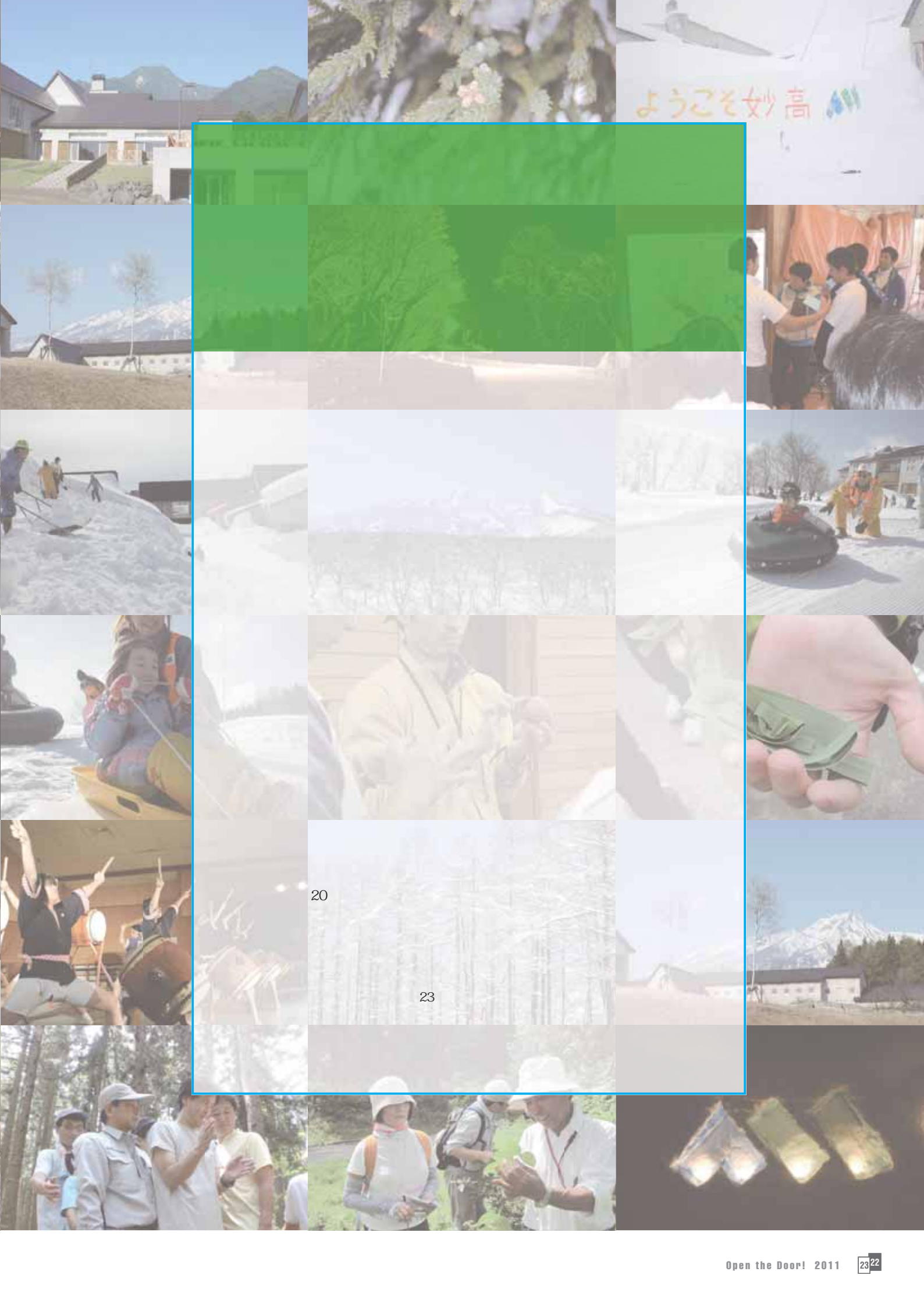


**脇川 幸治**

自然の家の建物には、星座や星の名前がついています。さて、次の中で実際にない名前はどれでしょう？  
アンドロメダ アルビレオ オリオン







## もっと、フィールドへ もっと、自然の中へ

国立妙高青少年自然の家は、豊かな自然で満ち溢れています。自然の中に一歩踏み出すと、そこは子どもたちにとって驚きと感動と学びの宝庫です。

四季折々に様々な動植物と出会い、多くの感動を得ることができます。

この感動は「本来その動植物が生育する環境の中で出会うからこそ」と言われています。そしてこのことは自然保護の意識を育むうえで何よりも大切なことです。

しかし、自然が相手ですから、いつも自分の思うようにはなりません。我々の森には熊もいますし、大スズメバチもいます。自然との共生です。

自然の恵みとか神秘に触れてワクワク・ドキドキしたことは、子どもたちの心に浸透します。そして心を経由した本物体験や知識は生涯残る記憶に蓄積されていきます。

今、国立青少年教育施設の今後の在り方が議論される中で、新たな視点に立っての目指すべき姿が報告されています。当施設としては、子どもたちを自然の中に放ち、心豊かな人として育てたいという、自然の家の基本理念を原点に、一人でも多くの子どもたちに体験の機会が広がるよう、またよき思い出の菜となるよう取り組んでいきたいと考えています。

今回の「オープン・ザ・ドア」は私ども妙高の自然の家が開所して20周年という大変記念すべき年の発刊となりました。

地元地域の方々をはじめ、関係各位のこれまでの絶大なるご支援に感謝申し上げます。

平成23年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立妙高青少年自然の家 所長 長町 一郎





## 私たちは子どもたちの 自然体験活動を応援しています。

国立妙高青少年自然の家では、平成21年度～22年度に下記の方々からご寄付をいただきました。(五十音順)

なお、ご寄付をいただいた場合は、サービス棟玄関ホールやホームページにて報告しております。



(有)アイビーオート  
家'Sハセガワ(株)  
(有)内田紙店  
(株)大谷ビジネス  
大塚製薬(株)長岡出張所  
岡本石油  
頸南バス(株)  
(株)謙信堂  
高坂防災(株)  
小山(株)新潟営業所  
新星建機工業(株)  
新東産業(株)上越支店  
(株)スワロースキー  
(株)第一印刷所上越支店  
(株)高館組  
中部ペブシコーラ販売(株)上越支店

(株)桐朋  
(有)永田印刷  
国際自然環境アウトドア専門学校  
(株)ニッコクトラスト東日本  
(株)パーツプロダクション  
(有)白星社  
パナソニック(株)セミコンダクター社新井工場  
(株)浜田材木店  
早川 雅雄  
ホシザキ北信越(株)上越営業所  
(株)丸山酒造場  
三国コカ・コーラボトリング(株)上越支店  
妙高観光開発(株)妙高カントリークラブ  
(株)横瀬オーディオ  
(株)渡辺リネン







未来が変わる。  
日本が変わる。

チャレンジ  
25

# 日本の 信

独立行政法人国立青少年教育振興機構



国立妙高青少年自然の家

コミュニケーションマガジン

# Open<sup>the</sup> Door!

Vol.5

日本の感動体験を！

# 濃川

で



## 子どもゆめ基金<sup>®</sup>

子どもゆめ基金は、子どもの体験活動・読書活動などを応援し、  
子どもの健全育成の手助けをする基金です。

助成金を受けたい方、毎年9月中旬～12月上旬が募集期間となっております。  
各都道府県の公共施設等にポスターを掲示するほか、子どもゆめ基金ホームページに募集告知  
をしますので、詳しいことは子どもゆめ基金部助成課までお問い合わせください。

基金へのご寄附など子どもゆめ基金へのご支援をお考えの方、ぜひ一度ご相談ください。

寄附金の振込先は・・・

振替口座 00150-5-371382 子どもゆめ基金

銀行口座 三菱東京UFJ銀行渋谷支店 普通預金 3025103 子どもゆめ基金

ご連絡先

子どもゆめ基金フリーダイヤル 0120-579081 (受付 9～18時)

E-mail yume@niye.go.jp

ホームページ URL <http://yumekikin.niye.go.jp>

独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1

最新情報は...